

日本医療福祉政策学会 第5回 研究例会

「人権としての社会保障」実現のための研究課題

○日時：2021年8月7日（土）14：00～16：50

○開催方式：Zoom ミーティングを用いたオンライン研究会

○趣旨：貧困・不平等が深刻化する中、社会保障の果たす役割はますます重要になってきています。しかし、2000年代に入ってから社会保障給付費は削減の対象とされ、社会保障制度改革推進法（2012年）では基本原理も変更されています。第5回研究例会では、各分野の研究者から「人権としての社会保障」を実現するための課題を提起していただき、議論することを目的に開催します。なお、例会終了後に幹事会を開催します。

○参加費：無料

○スケジュール

14：00～14：10 趣旨説明 芝田 英昭（立教大学・日本医療福祉政策学会会長）

14：10～14：45 医療分野 報告者：長友 薫輝（三重短期大学）

14：45～15：20 介護分野 報告者：井口 克郎（神戸大学）

15：20～15：30 休憩

15：30～16：05 最低生活保障分野 報告者：村田 隆史（京都府立大学）

16：05～16：40 児童福祉分野 報告者：石田 賀奈子（立命館大学）

16：40～16：50 総括コメント 松田 亮三（立命館大学）

※各報告は報告 25 分＋質疑応答 10 分

※報告タイトルは当日に各報告者が示す

○参加申し込み

8月2日（月）の正午までに Forms に必要事項を入力してください。申し込みをいただいた方に、当日の Zoom の URL と報告資料（PDF）をお送りします。8月4日（水）の午後5時までに送るようにはしますが、届かない場合は下記にお問い合わせください。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=8W4o5WltRE2yKFbrzc8ftLiZB2ZkqABIphvsHZCzhtRUMUc5Vk45V1QxMVZSTUg0UU9SUzUxOEFYTC4u>

○問い合わせ先

京都府立大学公共政策学部 村田 隆史

Mail : t-murata@kpu.ac.jp

各報告の概要

司会 芝田 英昭 (立教大学)

報告1 医療分野 長友 薫輝 (三重短期大学)

誰もが医療を利用することができる受療権、そして健康権が実現する社会へと歩みを進める必要がある。医療提供体制の再編や、公的医療保険をめぐる皆保険体制に関連する改革は、人権としての社会保障の実現に向けて近づいているのだろうか。コロナ禍においていっそう注目されている医療をめぐる課題について考察し提起する。

報告2 介護分野 井口 克郎 (神戸大学)

介護保険制度はいくつかのメリットを掲げて導入されたが、それらは20年たった今日も十分に実現されるに至っていない。また、同制度はその仕組み上、要介護者や家族と現場専門職・事業所を分断するなどし、介護保障の拡充を求める声を封殺する仕組みなども備えている。そういった現行社会保障費抑制政策や介護保険制度の抑圧構造下において、人権としての介護保障を実現するための市民・当事者の手段は何か、について考える。

報告3 最低生活保障分野 村田 隆史 (京都府立大学)

日本の社会保障制度の中には、生活保護基準を用いて水準が決められているものがある。生活保護基準を引き下げれば社会保障水準の引き下げにつながり、そのため、生活保護制度は常に「改革」の対象とされてきた。社会保障制度を維持・発展させるためには、①生活保護制度の一般扶助主義を徹底することと、②各制度の最低基準を設けることが必要だと考えられる。そのための研究課題について検討する。

報告4 児童福祉分野 石田 賀奈子 (立命館大学)

児童福祉法改正、児童虐待の防止等に関する法律の施行から20年、児童相談所に寄せられる児童虐待相談対応件数は増加の一途をたどっている。リーマンショックに東日本大震災と、子どもの育ちと子育てをめぐる状況は一層困難なもの、社会福祉サービスは質・量ともにニーズにこたえきれていない現状がある。報告者は、社会的養護を必要とする子どもや若者の実態調査の考察を通して、子どもの人権と豊かな発達を保障するための社会保障のあり方に関する提言を試みる。